

韓国仁川中区庁前の「日本風」人力車銅像 撤去へ

2019年08月31日12時06分

〔© 中央日報/中央日報日本語版〕



仁川市中区庁の前に2014年に設置された日本風人力車の造形物。〔写真 仁川中区庁〕

日帝強占期の苦痛の歴史を観光資源化したという声が出ている仁川中区庁前的人力車銅像が撤去される予定だ。中区庁は30日、「早ければ今週末にも区庁前の日本風通りに設置された人力車の銅像と招き猫の造形物を共に撤去する計画」と明らかにした。

中区は2007年、区庁前の道路を日本風にした。開港期に多くの日本人が居住した地域という理由からだ。区庁も過去に日本領事館があった場所に建設された。2014年には人力車の銅像と招き猫の造形物を区庁別館の前に設置した。額に布を巻いた若い男が人力車の前で用意する姿を形象化した造形物だ。招き猫は日本伝統の装飾物だ。当時、中区は「開港場通りを訪れる人が写真を撮影できる観光場所として活用するために造形物を設置した」と明らかにした。

◆「人力車銅像を撤去して少女像を設置すべき」

しかし最近、日帝収奪当時の下層労働者を象徴する青年人力車像が旧日本領事館場所に設置されたのは適切でないという指摘があった。市民団体の関係者は26日、「撮影場所として強制労役中の朝鮮青年の人力車ではなく、平和の少女像を建設するよう協力してほしい」と題した青瓦台(チョンワデ、大統領府)国民請願を掲示板に載せた。

この関係者は「旧日本領事館の場所に設置された人力車設置物を見た日本人歴史教師も『正常でない』と指摘した」とし「収奪の記憶と強制的に占領された歴史を正しく記憶するためには、倭人が乗った人力車を撤去して平和の少女像を設置しなければいけない」と主張した。

悩んだ区庁は結局、撤去を決めた。中区の関係者は「歴史学者らに諮問し、内部的に検討した末、人力車銅像と招き猫造形物を撤去することにした」とし「人力車銅像が最近の韓日関係でイシューの中心になり、撤去要請があった点も考慮した」と説明した。

中区は人力車銅像を撤去した後、区庁が管理する倉庫に保管することにした。撤去した銅像をどう処分するかは今後議論することにした。